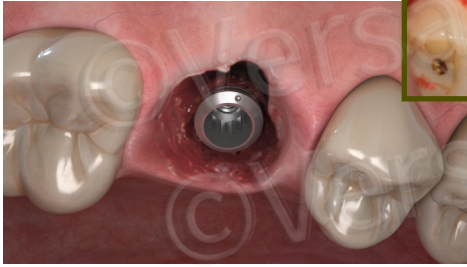


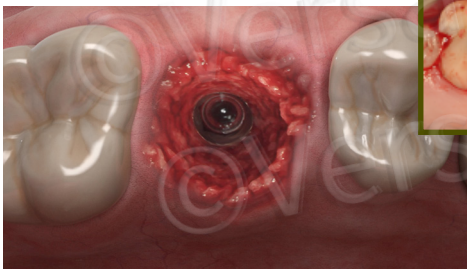
ステップ4:



ステップ4:

インプラントを頂上または頂部下レベルに埋入します (修復接続タイプによって異なります)。

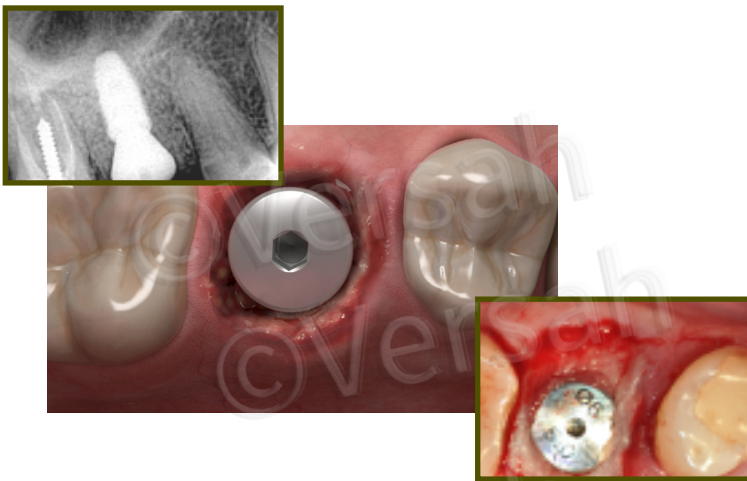
ステップ5:



ステップ5:

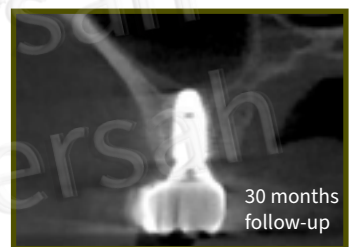
必要に応じて、骨移植材でソケットギャップを埋めます。理想的には、70/30の海綿骨/皮質骨の比率で同種移植片または同種移植ペーストを使用します。

ステップ6:



ステップ6:

ソケットをカスタマイズまたは標準化された大型のヒーリングアバットメントで封鎖します。



提供者: Dr. Samvel Bleyan

Osseodensification

複合大臼歯中隔拡大
心尖部サイナスリフトプロトコルを使用

概要: 4mm以上の幅の中隔を持つ上顎臼歯部位に適応

1. CBCTイメージングを使用してリッジ幅および上顎洞底までの距離を測定する
2. 中隔を保存するために、フラップレスで外傷のない抜歯を行う
3. デンサーバーを逆回転(800-1500rpm)で使用して、中隔を拡大し、同時に上顎洞膜をリフトする
4. インプラント埋入
5. 適切な骨移植材料でインプラント周囲のソケットを移植する
6. 大型のヒーリングアバットメントでソケットを封鎖する

ステップ1:

診断:

CBCTイメージングを使用して、歯槽骨の幅と上顎洞底までの高さを評価し測定します。

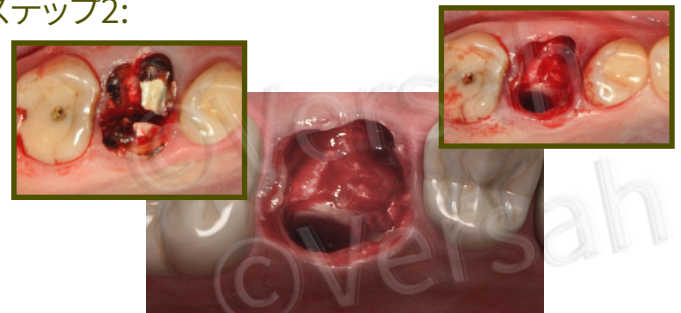
ステップ1:



ステップ2:

フラップレスの外科的抜歯が適応されます。分岐部で中隔を保存するために、外傷の少ない状態で大臼歯の根を分離します。

ステップ2:



ステップ3:

器具:

デンサーバーを逆回転モードで使用し(逆回転、ドリル速度800-1500rpm、灌流を伴う) 骨の可塑性を高め、オステオトミーを拡大し、上顎洞膜をリフトします。例として、パイロット後にデンサーバー2.0を使用し、次にデンサーバー3.0で上顎洞に入り、必要に応じてデンサーバー4.0を使用し、最終的にデンサーバー5.0を導入します。バーの直径が大きくなるにつれて、中隔骨が拡大し、上顎洞膜が自家骨移植片で最大3mmリフトされるべきです。**3mm以上のリフトが必要な場合、最終バーを使用して逆回転で150rpm、灌流なしで同種移植片を上顎洞に推進します(上顎洞リフトプロトコルIIを参照)**。インプラントの形状に応じて、対応するインプラントシステムのドリルプロトコルに従います。

ステップ3:

